

第8回福島原発事故による長期影響地域の生活回復のためのダイアログセミナー 「南相馬の現状と挑戦—被災地でともに歩む」

2014年5月10・11日（土・日）

会場：南相馬ゆめはっと多目的ホール<<http://www.yumehat.or.jp>>

発起人

国際放射線防護委員会（ICRP）

協力と後援

南相馬市、放射線安全フォーラム、福島のエートス、福島県立医科大学
フランス放射線防護・核安全研究所、ノルウェー放射線防護局、フランス原子力安全局
経済協力開発機構・放射線防護公衆衛生委員会、

同時通訳

ディプロマット社（平野加奈江、町田公代）

会合関連サイト

ICRP 通信：<http://icrp-tsushin.jp/>

福島のエートス：<http://ethos-fukushima.blogspot.jp/>

経過と目的

国際放射線防護委員会（ICRP）は、長期汚染地域居住地域住民の防護に関する勧告において、汚染地域の住民と専門家が状況の対応に直接関与することが効果的であること、および国や地域の行政は地域住民が自ら決定しうる状況を作りだし、その手段を提供する責任があることを強調している。

この観点に基づき、ICRP は、2011 年秋以来、会合を開催し、福島県の代表、専門家、地域住民の方々、およびチェルノブイル事故について経験を有するベラルーシ、ノルウェー、フランスの関係団体からの代表などが、福島原発事故の影響を受けた地域の長期の回復に対する挑戦についてその方策をさぐるためのダイアログセミナーを行った。

2011 年 11 月の第一回のダイアログセミナーは、ステークホルダーによる影響をうけた地域とそこでの懸念についての討論の促進を行った。

2012 年 2 月の第二回のダイアログセミナーでは、福島地域の住民の状況と問題に焦点を当て、状況の理解の進展と、汚染地域の回復に向けた経験の共有することの価値を認識した。人々は、状況についての懸念を表明した。

2012 年 7 月の第三回ダイアログセミナーは、とりわけ困難な食品汚染の問題について、異なる要求をもつ消費者、流通業者、生産者に来ていただき、食品の品質の改善と消費者の信頼獲得にむけて議論した。

2012 年 11 月の第四回ダイアログセミナーでは、これまで 3 回のダイアログを通して得た理解を踏まえ、子供の教育を取り上げた。参加者は放射線防護の備えの重要性を強調し、線量測定が個々人の放射線状況を把握する重要な道具であると認識した。事故の記憶と経験は、その困難においてのみならず、積極的な側面もあることが認識された。

2013年3月の第五回ダイアログセミナーは、「帰還」を取り上げた。帰還する、しないの決断は、単に放射線状況のみならず、長期汚染を受けた地域での生活の全ての状況を考慮してなされる。帰る・帰らない、留る・去る、の選択肢どれも困難を伴う。また決めかねている間に状況は刻々と変化する。この複雑で困難な問題について、幅広い関係者、組織、住民、教師、医師、行政、チェルノブイル経験者が一堂に会し、立場の違いを越えて、汚染地域の困難な状況に前向きに立ち向かうために共有すべき価値を探った。

2013年7月の第六回ダイアログセミナーでは、「飯舘」の人々が直面する現状と挑戦を取り上げた。2日間の熱心な議論を経て、4つの勧告がまとめられた。それらは異なる見解を表現することに敬意をはらい、情報の交換を助け、自ら定めることを推進するダイアログの場を作る。村民、研究者、専門家が協力して住民のためのプロジェクトを推進するための枠組みを確立すること。除染の優先順位を定め、村民の被ばく低減に有効な他のすべての可能な方策について検討する。ご高齢の方々が飯舘に帰るか帰らないかを自ら決断するための状況を可能な限り速やかに作り上げる。

2013年11月の第七回ダイアログセミナーは、いわきと浜通りの人々が専門家と共にあった自助活動に焦点を当てた。本ダイアログは、これまでのと違って、人々やコミュニティが、専門家の指導のもとにどのようにして身近の環境を理解しその状況をコントロールする活動に取り組んだかについての一連の証言が発表された最初のものだった。発表や討論を通じて、これまでのダイアログの勧告にある個人線量の測定、自助による防護、経験の交換、人々やコミュニティの必要に応じた専門知識の役割、などを実際の場で役立てることができ、しかもそれが住み慣れた地域でまともな生活を送るため、人々を支援する上で効果的であることが明らかになった。

2014年5月10、11日の両日に予定されている第八回ダイアログセミナーでは、地震、津波、原発事故の3重の災厄に見舞われ非常に複雑な問題に直面している南相馬市に焦点を当てる。南相馬市では、事故直後に、沿岸部に甚大な津波被害を受けると同時に、原発事故により、市内が警戒区域、屋内退避区域、指定のない区域に三分され、市民の9割が市外に避難するという状況となった。現在、人口の5割程度までは戻ったが、家族内で別れて避難を継続する人々も少なくない。そのなかで地域の人々は、外部専門家等の支援を受けながら、地域の放射線状況の理解と改善、復興のための活動を続けてきた。今回のダイアログセミナーでは、南相馬における活動からの経験について発表と対話がなされる。またノルウエーのチェルノブイル事故により長期の汚染をうけた地域の経験についての発表がある。

会合の進め方

同時通訳：英語と日本語の同時通訳をイヤホンで聞くことができます。

セッションの構成

午前のセッション：共有すべき事実関係についての発表です。

午後のセッション：帰還についての関係者の対話を行います。

懇親会：5月10日のセッション終了後に、南相馬市内「ラフィーフヌ」で懇親会を開催します。参加無料です。皆様のご参加をお待ちしています。

Tel: 0244-23-4111, <http://www.raffinehotel.com/>

プログラム

第1日目 5月10日(土)

9:30-10:00 開会

全体司会：ジャック・ロシヤール(フランス、CEPN)
多田順一郎(福島、放射線安全フォーラム)

挨拶

ICRP 委員 ジャック・ロシヤール

自己紹介

国内・海外参加者の自己紹介(各自1分で名前、専門、経験を話す)

10:00-12:20 セッション1：南相馬の現状

南相馬で起こったこと、そして今(2人、35分)

高橋一善(市役所・企画課)：事故から今日までの南相馬と除染(20分)
箱崎亮三(南相馬除染研究所)：除染の成果(15分)

放射線状況とその問題(4人 x 15分 = 60分)

荒孝一郎+小沢洋一(馬場地区特定避難勧奨地点住民の会)：
特定避難勧奨地点で生る
四釜祥克(南相馬)：放射線地域に住んで
和田智行(南相馬)：小高で生きる
齋藤幸子(南相馬)：小高で生きる

避難の現状(3人 x 15分 = 45分)

伊藤早苗(南相馬からの避難者)：京都での避難生活(15分)
一瀬昌嗣(NPO あいんしゅたいん)：避難者の支援(15分)
高山あかり(東京大学)：南相馬に育って(15分)

12:20-13:00 昼食

13:00-14:30 セッション2：ノルウエーのコミュニティーでの経験

(3人、90分)

ナジラ・ジョマ(トナカイ農家)：放射線影響を受けた地域での経験(30分)
セヴェン・ハープネス(チーズ農家)：破局から成功へ(30分)
カリ・ハガセス/マリット・エデガーデン(ヤギ農家母娘)：チェルノブイリ後におけるノルウエー山岳地域での畜産による生活(30分)
同時通訳：ハンネ・ナルビク・スヴェンゼン

14:30-17:00 セッション3 南相馬の状況に関する共通のビジョンを構築するためのダイアログ(ステップ1) — 何が問題か？

司会：ジャック・ロシヤール(フランス、CEPN)
報告担当：テリー・シュナイダー(フランス、CEPN)

ステップ1の進め方：

ステップ1で対話参加者は設問に対する回答を2回行う。
初回は自分の意見を述べる。
次回は他の方々の意見を聞いたあとで、自分の意見を述べる。

パネル討論参加者

専門家・行政：羽山時夫（南相馬市除染対策課）

箱崎亮三（南相馬除染研究所）

高山あかり（東大理）

住民

荒孝一郎（南相馬）

小澤洋一（南相馬）

四釜祥克（南相馬）

齋藤（南相馬）

但野謙介（南相馬）

高村美春（南相馬）

伊藤早苗（京都、南相馬の避難者）

一瀬昌嗣（NPO あいんしゅたいん）

鈴木健一（南相馬）

安東量子（福島のエートス）

西一信（南相馬）

入澤 朗（神奈川）

医療・保健：

宮崎真（福島医科大学）

坪倉正治（南相馬総合病院）

堀 有伸（ひばりが丘病院）

報道：

菊池克彦（福島民友）

大森真（テレビュー福島）

17:00 – 17:30 休憩

17:30 – 18:00 報告担当者によるまとめと総合討論

司会：ジャック・ロシヤール

報告担当：テリー・シュナイダー

18:30 – レセプション ラフイーヌ

桜井勝延市長のご挨拶

参加無料、ご自由にご参加ください

第2日 5月 11日(日)

9:30- 開会

全体司会：ジャック・ロシャール(フランス、CEPN)
多田順一郎(福島、放射線安全フォーラム)

自己紹介

新規参加者の自己紹介(各1分で名前、専門、経験)

9:30-12:00 セッション4 南相馬のこれから

避難者と準避難者(車座形式で安東さんを司会役として発表、討議、45分)

安東量子(司会役、福島のエートス)
田中睦美(話役、仙台、仙台避難母さん代表)
鈴木健一(話役、南相馬、北海道から帰還)
門馬誠(話役、南相馬)

線量と地域医療のこれから(2人、30分)

坪倉正治(南相馬総合病院)：内部被ばくの現状
堀有伸(雲雀が丘病院)：心のケア

南相馬で生きる(5人、75分)

高橋荘平(えこえね南相馬研究機構)：ソーラーシェアリングでもう一度農業を
西一信(南相馬)：南相馬で燃料作物を育てる
半谷栄寿(南相馬)：自然エネルギーの体験学習により子供達の成長を育む
但野謙介(南相馬)：浜通りと福島の産業を推進する
田中章広(株式会社リンケージ)：浜通りと福島の産業を推進する

12:00-12:30 セッション5 いわきと神奈川での経験(2人、30分)

遠藤真也(いわき市末続)：末続の取組
入澤朗(東京)：神奈川から福島に取組む

12:30-13:30 昼食 食彩館(0244-22-2204)

13:30-16:00 セッション6 南相馬の状況に関する共通のビジョンを構築するためのダイアログ(ステップ2) — どのように前進するか?

司会：ジャック・ロシャール(フランス、CEPN)
報告担当：ジャンフランソア・レコント(フランス、IRSN)

ステップ2の進め方：

ステップ2の進行のやり方はステップ1に準ずる

専門家・行政：横田美明(南相馬市除染対策課)
高橋荘平(えこえね南相馬研究機構)
高山あかり(東大理)
住民 荒孝一郎(南相馬)
小澤洋一(南相馬)
但野謙介(南相馬)

高村美春（南相馬）
門馬 誠（南相馬）
鈴木健一（南相馬）
安東量子（福島のエートス）
田中章広（リンケージ代表取締役）
田中睦美（仙台避難母さん代表）
西一信（南相馬）
遠藤真也（いわき）
入澤 朗（東京）
医療・保健： 坪倉正治（南相馬総合病院）
堀 有伸（ひばりが丘病院）
根本剛（南相馬総合病院）
報道： 菊池克彦（福島民友）
大森真 （テレビュー福島）

16:00 – 16:30 休憩

16:30 – 17:30 報告担当者によるまとめと総合討論

司会：ジャック・ロシヤール（フランス、CEPN）

報告担当：ジャンフランソア・レコント（フランス、IRSN）

17:30: 閉会

全体のまとめ（10分）

テッド・ラゾ（フランス、経済開発機構）

閉会の挨拶

ジャック・ロシヤール

江口哲郎